

氏名	かのう ひかる 加納 光	職名	情報センター館長・教授（経済学士）
専門分野	中国語教育 中国語学		
所属学会	日本中国語学会 中国語教育学会 日本中国学会		
担当科目	中国語Ⅰ・Ⅱ、アジア文化論、基礎日本Ⅰ・Ⅱ、日本語中級Ⅰ・Ⅱ、日本語上級Ⅰ・Ⅱ、総合政策概論Ⅱ、環境情報学概論Ⅱ		
<b>I 教育活動</b>			
	教育実践上の主な業績	概	要
1. 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）	<p>少人数クラスの実現により、受講生一人一人に時間をかけて発音や文法読解などの十分な個別指導をすることが可能になり、これまでになく受講生の理解力を向上させることができるようになってきた。中国語の授業では、日本語と中国語がいかにより異なるのか、両言語の発音、文法、語彙についての相違点を明らかにしたうえで、日本語を母語とする日本人学習者が中国語を学習する際の注意点を明確にし、音響や画像なども活用しながら外国語の「読む」「書く」「聞く」「話す」の4技能を効率的に学べるよう学習者の視点に立った授業計画を立て、最大の学習効果が得られるように工夫している。</p> <p>グローバル化が進む日本社会において、外国人の増加に伴い、多言語・多文化共生社会を志向する動きが加速している。こうした状況を踏まえ、英語だけではなく、多様な視点と価値観が共存する社会を認め合い尊重することが、より健全な国際社会の構築に欠かせない。この考え方に基づいて、言語類型的に日本語とも英語とも大きく異なる中国語を学ぶことで、言語文化の多様性、価値観の多様性を理解・認識させることに重点を置いた教育指導を実施している。</p> <p>日本語科目では、受講生が留学生ということもあり、日本語の「読む」「書く」「聞く」「話す」の4技能のさらなるスキルアップを目標に授業を行っている。国籍により文化的背景が異なる留学生に対しては、日本社会で生活をする際に必要な日本事情に関する理解を養うため、事情研究も取り入れながら授業を行っている。</p> <p>非漢字圏の学生に対する漢字教育にも多くの時間を割くように心がけている。</p> <p>さらに、日本語能力試験N1の資格取得を目指す対策講義にも力を入れている。</p>		
2. 作成した教科書、教材、参考書	<p>講義用のプリント教材および資料については、「中国語」、「日本語」、「アジア文化論」など、各担当科目において適宜作成している。授業内容の理解を促進させるために講義内容を分かりやすい平易な言葉で文章化したものを主教材あるいは補助教材として使用している。いずれもキーワードとなる部分を空欄にして記入させる形式の主教材あるいは補助教材を作成し、講義を受けながら受講生が自らキーワードを記入することで重要なポイントを把握し、講義内容の理解・促進を第一に考えたものである。</p> <p>外国語教育においては、音声教材も必要に応じて独自に作成し活用している。より自然な外国語を言語音として知覚できることを主眼において作成している。また、PowerPointによる各教材も適宜作成し、受講生の理解促進のために活用している。</p>		
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	なし		

4. その他教育活動上特記すべき事項	<p>数年来、留学生に対する日本語科目を担当するようになり、多国籍の留学生に対する効果的な日本語の教育方法を研究し教育実践を行っている。試行錯誤を重ね、さまざまな教育実践を行うなかで、日本語教育の一環として、日本語弁論大会への参加を希望する幾人かの留学生にスピーチ指導を行い、日本語の文章表現能力、プレゼンテーション能力を養成させ、うち数名の留学生を全国規模の弁論大会へ出場させた。この経験を通し、留学生の持つ潜在的な能力を如何に引き出し、のばすことができるのか、それにはさまざまな方法があり、学生にあった指導方法を見出すことの重要性を実感している。</p>
<b>II 研究活動</b>	
なし	
<b>III 社会における主な活動</b>	
役員・委員等	
2010年4月～現在に至る	三重県国際交流財団評議委員